

令和7年第6回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和7年6月6日（金） 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和7年第5回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
林委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
（1）一般事務報告 なし
（2）専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第27号 令和8年度使用教科用図書採択基準について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。

鈴木教育長	一般図書の選定資料については、小学校は1冊減、中学校は6冊増となっている。各学校ではこの他に、文部科学省の著作教科書、あるいは他の普通教室で使っている教科書なども含めて、その子に合ったものを選ぶということになっているもの。
一盃森委員	地区の採択協議会において、これからその採択基準を認めていただき、それに基づいて資料の作成や、或いは公聴会等々を開いて第2回目の協議会を持っていくというようなスケジュールにしているもの。 どういう基準、観点で前と比べてなくなっている図書や新しく入ってくる図書とかを選定しているのか。わかる範囲で結構なので教えていただきたい。

鈴木教育長	いろいろな理由があるかとは思いますが、普通は絶版になったとか、内容が今の時代に合わなくなったとかで、ここには載せないようにし、今後新たな社会的課題に基づいたものが必要になるので、こういうものを今度は増やそうというような判断になっているのではないかと。
櫻田教育総務課長	資料 88 ページを御覧ください。こちらの方に今回除外となった図書の一覧がございます。除外の理由としましては、文科省から供給不能等の通知があったためというのが主な理由となっているものです。
一 盃 森 委 員	いろいろ絵本などでも評判になっているものはテレビで時々流れたりしていて、絵本一つにとってみても面白そうだなあと思うのが沢山ある。だから世の中が変わってくるにつれて、児童書もその通りだし、子供だけがというのではなく、大人も読んでみて楽しめるっていうふうなこともずいぶん増えてきている中で、やはり支援学級、支援学校に行っている子供たちもそういうふうに理解を深めさせられやすいというか、そういった子供たちでも理解ができるようにするということは、とても大事な観点なのだろうなと思うので、どんどんそういう意味では更新されていくっていうことの方が大事なような気がする。
鈴木教育長	ほかにございますでしょうか。
林 委 員	小学校で英語が入ってきていて、ABC とか何か絵本があるからそういうのか入ってるというかなと思って今探して見ていた。
丹 羽 委 員	本当は親も自分の子供の教科書を一緒に勉強してもらって、いや、勉強じゃなくて読んでもらいたい。そういう環境があった方がいい。せっかく教科書があるのだから、子供と一緒に読んでもらいたい。今の時代に合った学びというか、子供と一緒に学ぶという教育がこれから必要なのではないかと感じた。
鈴木教育長	昨日武田先生と話しをする機会があって、金ヶ瀬小学校で国語の文学作品の読み取りの授業をしたのだが、その中で武田先生が、昔は「夕読み」というのがあったんだよねとおっしゃった。夕方になると各家庭から子供の教科書を音読する声が聞こえてきた。おじいちゃんおばあちゃんに聞いてもらう。
丹 羽 委 員	いいよね。そういうことが絶対に必要だ。
鈴木教育長	そうすると、おじいちゃんおばあちゃんも教科書にこういう事が書いてあるんだとわかる。お父さんお母さんでもいいし昔は家庭で教科書に関心を持ってもらうという習慣があったのではないかと。いまも「音読みカード」などがありお母さんに読んでもらおうとかいつ読んでもらおうとか。大体昔は夕食の準備前に読んでもらったりしていたのではないかと。
丹 羽 委 員	いい話ですね。今は子供に子供部屋がある時代だが、勉強は茶の間でやる、台所でやる、声を出して読むという勉強をしたら、先生が親も一緒に読んで

林 委 員
鈴木教育長

くださいという必要がなくなるのかもしれない。
私も家族に聞かせて、茶の間で本読みをした。
本当に良い習慣だと思う。

議案第 28 号 大河原町地域学校協働本部員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 29 号 大河原町部活動地域移行推進協議会委員の任命について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

7 その他

(1) 教育長報告

1 畠山 重篤さん

(1) 編集手帳(読売新聞 R7. 4. 8)

(2) 「よみうり寸評(読売新聞 R7. 4. 8)

(3) 「森は海の恋人」証明した重翁(読売新聞 R7. 4. 8)

畠山重篤氏は気仙沼市の有名なカキ養殖専門家で 2025 年 4 月に 81 才で亡くなられた。畠山氏の今までの功績や活動が編集手帳や読売寸評、社会面等に記事が取り上げられている。編集手帳ではカキの養殖で、「森は海の恋人」をキャッチフレーズに、山に木を植えるという活動を盛んに行い、その豊富な水の中に生まれる栄養分を食べて、牡蠣がどんどん大きくなるというような SDGs の本当に先駆者的な方であった。孫の風くんの言葉「お爺ちゃん好きだよ、メダカの池を守ってくれたからね」。

また、「よみうり寸評」では東日本大震災で畠山氏の養殖場は大変な被害を受けたが、その後に「私たちが全部用意します。」との山側の関係者が言ってくれ植樹行事を開催できた。山と海の絆がますます強まったと書いてある。人を動かすということでも畠山さんの功績は非常に大きいものであった。

2 伊集院静さん

(1) 伊集院静と仙台(河北新報 R7. 2. 2)

(2) 高木幸忠先生『タダキ君、勉強してる?』から

2023 年に亡くなられた作家の伊集院静氏についての河北新報の記事。伊集院氏は仙台市の自宅と東京等の仕事場を行き来する生活を送っており、仙台が疲れた心と体を癒やす場であった。また、無頼派と呼ばれる反面、心が優しくて、サービス精神が旺盛であり、愛犬が亡くなったときは一晩中添い寝をしていたとのエピソードが書かれている。

伊集院氏の本で、紹介したいのが「タダキ君、勉強してる?」という本で、遊びの先生やサッカーの先生など自身と交流のあった方々や家族のことを書いている。ま

た、オール1の劣等生だった小学1年生のとき、自分と友達に厳しくも優しく接してくれた高木先生のことを書いており、高木先生からスケッチを誉められ、その後一心不乱に絵に打ち込み最終的に図画工作の評定が5となった。伊集院氏は、高木先生は自身と友達を鼻屑したと記しており、母親も先生が自分の息子を思いやり、初めてまともに扱ってくれたってこう書いている。そういう意味でも、このような子どもの可能性を開く鼻屑ならもっとしても良いのではないかと思う。

3 榎木孝明さん

(1) ‘榎木 ‘がそこにいなかったのです (さあとらず 2025. 4)

俳優の榎木孝明氏は、映画「天と地と」の中で、監督からなかなかOKがでない、全部NGがずっと続いたが、上手くやろうとするのではなく、自分が消えた、存在がなくなってしまう芝居で初めてOKがでた。絵や武道についても同じで、良いものを人に見せようという思惑があると上手くいかず、無になることが重要と説いている。座禅にも繋がるもの。また、子供には97%の才能が眠っていると述べており、常識に頼らないよう先生達へメッセージを残しているほか、子供たちへは、大人の締め付けがあるとしたら、うまくすり抜けて自分なりの生き方を探してくれと説いている。

4 栗山英樹さん

(1) 適材適所の栗山采配 (読売新聞 R7. 3. 21)

(2) 『信じ切る力』 (栗山英樹)

何度も取り上げている栗山英樹氏について、読売新聞に突然2年前のWBCでの栗山氏の采配の記事が掲載された。なぜ今頃取り上げるのかと思ったら、やはり適材適所の人の使い方を言っているものであった。これまでの校長会でも栗山ノートや世界一のベンチで起きたことなども紹介してきたが、やはり栗山氏は素晴らしいと感じた。

また、著書『信じ切る力』では、教員になる大学からプロを目指した栗山氏が、プロの世界に入ると、圧倒的に体格もパワーも違って、そういう中でやっていくにはどうしたらいいかとショックを受けた。二軍でくすぶっていた中で、二軍監督の内藤博文氏から信じてもらえたことで頑張れた。人に任せる、信じて任せるというのが指導者の人生の原点となったと記されているもの。また、子供たちは生きているだけすごいいいことであると述べており、これは特に中学生に読んでほしい。挫折したとか、友達と衝突したとかそういうことがある子供たちにぜひ読んでほしい本である。

5 子供たちや先生方から学ぶ (笠井健一)

笠井健一氏は元々小学校の教員で、その中で算数の授業というのはどうしたらよいか、良い授業とはどうしたら良いかをずっと考え続けてきた方である。現在大河原町でやっている対話的な学びである、わからない子や苦手な子に寄り添う、わかる子も満足する

授業はどうあったらいいかということを考えながら、若い先生達には成長していったほしい。

6 探求の対話（p4c）

（１）親子や講師の「自己肯定感」を育む事例（畠山明）

（２）子どもの自己実現を支える探求の対話（西野真由美）

個別教室の Apple 学習塾の代表の畠山明氏の幼少期のエピソードを紹介。幼稚園の登園前に朝食で「わかめ美味しいね」とお母さんに言ったら、お母さんは「早く食べなさい」と言った。本当はわかめ美味しいねって言ったら、美味しいよねって答えて欲しかった。その子の気持ちをどう組んで、答えるかっていうことの大事さがあるのではないか。共有体験は自己肯定感を育てると畠山氏は述べているもの。

また、東大に合格した子の事例として、スモールステップ、つまり少しずつの努力を続けていく。毎日 0.01% の努力を積み重ねると、1 年後には約 37.8 倍の成長が見られるというようなことを述べている。つまりコツコツとやる、努力を持続するのはなかなか難しいが続ける力を持っているからこそ東大に入れるのではないか。

西野先生の p4c の効果では、やはり自分の良いところを見つけていくことには良さがある。違いを認識することによって学ぶ気持ちになったり、楽しい気持ちになったりすると、多様性や違いを求め合うという気持ちが学ぶことに関わっている。つまり対話的な学びと同じである。国語の授業、算数の授業、理科の授業、それと一緒に思う。

7 『教員不足』（佐久間亜紀）

佐久間亜紀氏の書いた著書『教員不足』。非常にわかりやすく、県教委の人事担当者レベルの知識がこの本に詰まっていると思う。やはり教員不足は全国的に深刻な問題となっており、佐久間氏は教員不足解消の対策として、国が全国教育長会からの要望を汲んで対策を講じていく必要があると提案している。

8 算数科における目標の実現に向かう学習の過程を大切にしたい授業づくりのポイント（笠井健一）

8 点目は算数について再び笠井先生の論説である。抽象的なものだが、やはり押さえておくべきところである。特に「数学的な見方・考え方」を用いることであり、どのような見方・考え方が必要なのか例示されている。例えば単位を揃える、位を揃えて計算するという見方考え方、それが色々なことに繋がっていくもの。

9 いじめ法の放置から 11 年—スケープゴートとなった担任（小野田正利）

小野田氏のいじめ法の放置の問題について。中学校 3 年生の女性担任教諭が「停職 1 ヶ月」懲戒処分を受けた件について、第三者委員会の処分の取り消しということで確定した。

つまり、あまりにも第三者委員会が作った報告書に頼りすぎて事実と異なることが書かれていたり、あまりにも被害者側に寄った記述で、先生や学校の立場を全く考えてないような内容であった。やはり処分を出すときには本当に様々な観点から検討し、吟味し、確かな事実を捉えてから行うべきである。

10 その他

- (1) 大河原町小学生の学力に関する記事が翻訳され「the Japan times」の紹介
- (2) OH!かわら楽校①『モルック』で遊ぼう、ごみ拾い
- (3) 金ヶ瀬中指導主事訪問
- (4) 町内小学校運動会
- (5) 第三の居場所「おおがわらきち」開設(TBC)
- (6) 大河原小5年(仙台大学との体力づくり連携事業)
- (7) 地区中体連総合体育大会
- (8) 大河原中学校学校運営協議会
- (9) 金ヶ瀬小指導力向上研修(国語)〔竹田幸正先生〕
- (10) 大河原小指導力向上研修(国語)〔竹田幸正先生〕
- (11) 大河原小指導力向上研修(算数)〔市川啓先生〕

大きな10点目その他について。最初はジャパントाइムズの英字新聞で、これは河北新報の伊藤記者が退任されるときで挨拶に来られた際に置いていったもの。44ページにある大河原町小学生の学力が全国トップという河北新報の記事が、ジャパントाइムズに英訳されて掲載された。このように取り上げていただいて大変良いことだと思い、現在作成中の「小学生の英単語」という改訂版の表紙にこの英文の一部を掲載できたらと考えている。このジャパントाइムズの記事は中学生あたりだと読めると思うので、ぜひ読ませていただきたい。

続いては、OH!かわら楽校の第1回目『モルック』で遊ぼう、ゴミ拾いで、『モルック』とはフィンランド発祥のスポーツで、木の枝のボーリングみたいなもの。子供達も喜んで参加していた。今回は12名の不登校傾向の小・中学生12名が参加し、モルックで遊んだ後は河川敷のゴミ拾いを行った。こうやって社会参加というのは非常に大きなことではないかなと思う。友達と遊ぶ楽しさとか、そういうものを感じてくれば、もう目標達成と私は思っている。

丹 羽 委 員	いただいた資料で一番感心したのは、伊集院静さんの最眞。えこひいきという言葉はよくあるが伊集院さんは本の中で「要するに高木先生は藤原くんと私をひいきしたのである。」これは非常に誰が読んでもいいなと思う。漢和辞典で「最眞」と「えこひいき」の違いを引いた。「最眞」は、自分の気
---------	---

一 盃 森 委 員
鈴 木 教 育 長
一 盃 森 委 員

林 委 員

に入ったものを単に支持したり、引き立て、応援することや行為を言う。
「えこひいき」は、特定の者を不当に有利な立場に置く。公平性を損ない、差別になる。なるほどなと思うが、だからと言って先生にこれをすすめるのは難しいと思う。自分の自由な時間を削って、あの子に釣りを教えたいな、絵を描かせたいなというのは難しい話であって、どうするかというと、皆のいいところを伸ばしてやればいい。つまり悪いところではなくて、勉強できない子がいたら、絵が上手なんだとか、物を作るのが上手なんだとか、ゴミ拾いしていたの先生は見ていたんだ、とかそういういいところをどんどん伸ばしてやれば、悪いところはだんだん目立たなくなるのではないかな。それこそがまさにその子をひいきすることじゃないかなと感じた。

44 ページ。河北新報の伊藤記者はいつ退任されたのか。
3 月末で交代しました。

この令和 5 年 10 月 30 日河北新報「全国学力テスト 大河原の小 6 正答率全国トップ級」で、優等生という言葉が少し引っかかったが、この記事は良かったと思っている。鈴木教育長を中心に、学力向上のために色々なことに取り組まれてきたが、やはり科学的、客観的な根拠に裏づけられた方策を打ち出して、それに地道に取り組んだ成果として出てくるし、普遍化というか、他にもこういう方法だと間違いなく成果が出てくるよというようなことを、一般化普遍化することができるというような意味でその証左だと思う。優等生と別に思っている訳ではなくても、一般的な社会の皆さんに読んでいただくためにはそのような言葉を使うとより理解していただけるという意味の言葉選びだったんだろうと読ませていただいた。

次にやはり教員不足について。やはり絶対に良くない。子供らの生活にとって学校の中が最大の環境なのだから、本来いるべき人が、もうあらかじめ欠けてしまっているっていう中で生活をさせなければいけないというこれは絶対に避けなければならない。

私は 2 点お話しします。

一つは、今自己肯定感の話があったが、宮城県でもずっと全国学調の意識調査で低いといわれて、令和 6 年度もやはり低かった。私もずっと教職員の身で考え続けてきているのだが、低いことが一概に悪いことではなく、謙虚さの表れだったり、自己肯定感が低い子で学力の高い子も多い。そのため一概に数値で判断して高めなさいといっちはいけない気がする。

たぶんこの資料を読んだとおり、対話の授業をたくさんしていけば、この自己肯定感が高まる、鈴木教育長がおっしゃってる通りだと思っていて大河原も少し上がってきているのではないかと期待をしているがどうなのでしょうかな。

丹 羽 委 員	それは間違いないと思う。
林 委 員	それからもう一点は、小野田先生の第三者委員会がスケープゴートを生んでしまったという記事で、私もすごく考えて、前回は申し上げたんですけどもやはり何よりもその重大な事態を生まない、その手前での対応が何としても必要だと思っている。学校の中の先生方以外にも、スクールサポーターや支援員の方たちが大河原町は多くいらっしゃる。朝も夕も通学路の見守りなどもされていて、大河原町は恵まれているほうだと思う。そういう方たちの目でも良く見てもらい、情報をたくさんいただくことがいじめだったり不登校だったりを少しでも減らしていく未然防止になる。人と人の繋がりがとても大事なのではないかな。
片 倉 委 員	私も栗山氏のお話を何度か読ませていただいておりますが、今回信じ切る力のところ 18 ページで、栗山さんの親として、子供が社会に出たとき間違ったときを考えると、人としてちゃんとして欲しいと思うという話に共感した。この社会を生き抜くために、これが大事と捉えて友達になってくれるとか、仲間になってくれる、認めてくれるとか、やはりコミュニケーションがすごく大事だと感じた。子供の自己肯定感を高めていきたい。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和 7 年 7 月分行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 臨時教育委員会は令和 7 年 7 月 3 日 (木) 午後 2 時から開催する。

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和 7 年 7 月 18 日 (金) 午後 2 時から開催する。

11 閉会宣言 午後 3 時 50 分

令和 7 年 7 月 18 日

署名委員

署名委員